

公開シンポジウム

# 石器文化からさぐる 新人・旧人交替劇の真相

私たちの直接的祖先となる新人ホモ・サピエンスは5~4万年前にアフリカからユーラシアに拡散したといわれています。その過程や要因について、当時の考古記録、特に石器文化から分かっていることを紹介し、これからの研究指針について議論します。



参加  
無料

申込み  
不要

日時：2014年**3月15日**(土)14:00~17:30

場所：名古屋大学野依記念学術交流館2Fコンファレンス・ホール

主催

・文部科学省科研費補助金「新学術領域研究」2010-2014「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究」、研究班A01「考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究」  
・名古屋大学博物館

私たちの直接的祖先である新人ホモ・サピエンスがアフリカからユーラシアへ拡散し、先住民(旧人)の絶滅あるいは吸収を招いた要因が、新人と旧人の行動差にあるのではないかと、多くの研究者が考えています。その理由は、新人がユーラシアに拡散した約5〜4万年前にアフリカやユーラシアの広い地域で石器文化が大きく変化した記録(中部旧石器から上部旧石器文化への移行)があるからです。

この現象を直感的に解釈すると、中部旧石器文化の担い手だった旧人が、上部旧石器文化の担い手の新人と交替したと考えられます。しかしながら、中部旧石器時代の新人は中部旧石器文化を担っていた記録や、上部旧石器文化の一部が旧人ネアンデルタール人によって創られた可能性を考慮すると、上部旧石器文化の発生プロセス、つまり「上部旧石器化」の要因を単に新人の出現に帰することは難しい、というのが最近の見解です。それでは、上部旧石器化はどのようにして進行したのでしょうか。また、この文化変化は新人・旧人交替劇とどのような関係があったのでしょうか。

この研究会の第1部では、西アジア、アフリカ、南アジア、日本列島の各地における上部旧石器化の内容やタイミングに関する考古記録を参照し、この文化変化に関わる自然・社会環境について議論します。第2部では、歴史上の大きな文化変化である新石器化と弥生化に関する最新の考古学研究成果を参考にします。それを踏まえて最後に、新人・旧人交替劇の真相にせまるために、上部旧石器化の考古学研究を今後どのように進めるべきかについて討論します。

13:30 開場  
14:00-14:10 趣旨説明

### 第1部:新人・旧人交替劇に伴う文化変化:上部旧石器化の真相をさぐる

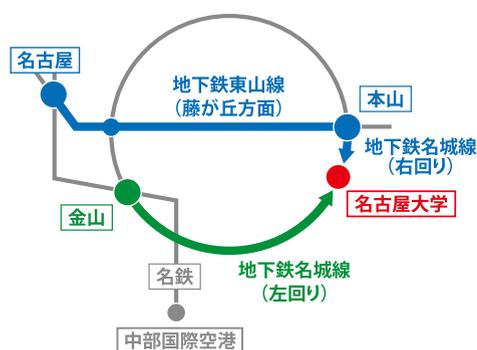
14:10-14:40 新人拡散期の西アジアとアフリカの石器文化(門脇誠二、名古屋大学博物館)  
14:40-15:10 南アジア・アラビアの上部旧石器化と新人拡散(野口淳、明治大学校地内遺跡調査団)  
15:10-15:40 日本列島における後期旧石器化(仲田大人、青山学院大学)  
15:40-16:00 休憩

### 第2部:新石器化と弥生化の考古記録と自然・社会環境

16:00-16:30 西アジアにおける新石器化(前田修、筑波大学人文社会系)  
16:30-17:00 縄文から弥生への文化変化(松本直子、岡山大学社会文化科学研究科)  
17:00-17:30 討論(発表者全員)  
17:30 閉会

プログラム  
2014年  
3月15日(土)

#### 会場へのアクセス



- 地下鉄名城線「名古屋大学」駅2番出口から徒歩
- 名古屋市バス「名古屋大学」バス停から徒歩



お問い合わせ

名古屋大学博物館

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 電話:052-789-5767  
<http://www.num.nagoya-u.ac.jp>